

VREC-DH100-D

取扱説明書

車への取り付けは、必ずこの取扱説明書の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やけがの原因となる場合があります。この場合は、弊社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ
取り付け作業が完了しましたら、この取扱説明書はお客様へお渡しください。

免責事項について
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、弊社は一切の責任を負いません。

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>
「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル、またはIP電話をご利用下さい。(通話料がかかります)
正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただきますことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

カスタマーサポートセンター ※記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますのでお客様サポートサイトもご活用ください。

■お客様サポートサイト
<https://jpn.pioneer/ja/support/>

■商品についてのよくあるお問い合わせ(FAQ)
<https://faq2.jpn.pioneer/>

■電話
【カーオーディオ、カーナビゲーション商品】※受付時間はお客様サポートサイトでご確認ください
【固定電話から】0120-944-111(無料) 【携帯電話・PHSから】050-3820-7540(IP電話・有料)
または 0570-037-600(ナビダイヤル・有料)
※カーナビゲーションの訪問宅電話番号検索機能に関する個人情報の削除などはこちらの窓口で承っております

■ファックス 0570-037-602(ナビダイヤル・有料)

修理受付窓口

■修理受付サイト
受付時間、よくあるお問い合わせなどはホームページをご確認ください
<https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/repair/>

■電話
【固定電話から】0120-5-81028(無料) 【携帯電話・PHSから】050-3820-7550(IP電話・有料)
または 0570-037-610(ナビダイヤル・有料)

■ファックス 0120-5-81029(無料)

安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
	注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	注意(警告を含む)しなければならない内容です。		必ず行っていただく強制的な内容です。
	禁止(やってはいけないこと)の内容です。		

DR-v3.1**

接続・取り付け

警告

エアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けや配線をしない
エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取り付けやアース配線に、保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを使用しない
制御不能や発火、交通事故の原因となります。

視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない
交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない
電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

本機は、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない
視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。

車両メーカーが指定する禁止エリアや車両の操作を妨げる位置に、取り付けや配線をしない
カメラ装置などの動作を妨げるおそれがあり、交通事故の原因となります。車両メーカー、カーディーラーに注意事項を確認してから作業を行ってください。

エアバッグの動作を妨げないように、取り付け位置や角度の調整を行う
エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取付・取外し・配線は、専門技術者に依頼する
誤った取り付けや配線、取り外しを行うと、車に支障をきたす場合があります。また、お客様ご自身による取付・配線はケガの原因となりますので、販売店などにご依頼ください。

説明書に従って接続・取り付ける
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コード類はしっかりと固定する
コードを固定する付属部品または市販部品を使用してください。ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと、運転操作を妨げ事故の原因となります。また、乳幼児の首などに巻きつく危険があります。

パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認し、干渉しないように取り付ける
穴あけドリル等がパイプ類、タンク、電気配線などと干渉すると、火災、故障の原因となります。

付属の部品を使用し、固定する
付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れて運転の妨げになり、事故やケガの原因となります。

取り付けと配線が終わったら、車の電装品が正常に動作するか確認する
正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する
断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

取り付け場所の汚れ(ごみ、ほこり、油)などを取り除き、しっかりと取り付ける
走行中に外れ、交通事故やケガの原因となります。乗車時に取り付け状態(接着やねじのゆるみなど)を点検してください。

使用方法

警告
本機はリチウム金属電池を内蔵しています

- 液体で濡らさない
- 分解しない
- 指定以外の方法で充電しない
- 火の中へ投入、加熱をしない

発熱・発火・破裂の原因となります。

内蔵電池に強い衝撃を加えない
変形、保護機構が破損する可能性があります。発熱、破裂、発火の原因となります。

画面だけを見ながらの運転はしない
必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の間違いとカメラの死角により人や物にぶつかるおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない
警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

電池・ネジなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない
誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない
発煙、発火、感電の原因となります。

分解や改造をしない
交通事故や火災、感電の原因となります。

注意

ヒーターの吹き出し口の近くに設置しない
製品通風口、放熱板を塞ぐ場所には設置しない

熱風が直接当たったり、放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。

本機を不安定なところに取り付け
落下などによる事故やケガ、故障の原因となります。

コード類は途中で切断しない
コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となります。

コード類の配線は、車体の高温部・金属部・可動部に接触させない
断線やショートによる火災や感電の原因となります。

水のかかるところや結露、ほこり、油煙の多いところに取り付け
発煙や発火、故障の原因となります。

使用方法

警告

本機はリチウム金属電池を内蔵しています

- 液体で濡らさない
- 分解しない
- 指定以外の方法で充電しない
- 火の中へ投入、加熱をしない

発熱・発火・破裂の原因となります。

内蔵電池に強い衝撃を加えない
変形、保護機構が破損する可能性があります。発熱、破裂、発火の原因となります。

画面だけを見ながらの運転はしない
必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の間違いとカメラの死角により人や物にぶつかるおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない
警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

電池・ネジなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない
誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない
発煙、発火、感電の原因となります。

分解や改造をしない
交通事故や火災、感電の原因となります。

ぶら下がったり、押したり引っ張ったりして、力を加えたりしない
ケガや車両の変形および故障の原因となります。

液漏れした電池には直接接触しない
ケガや周囲を汚染する原因となります。万が一皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗い流してください。目に入った時は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください

画面が映らない、音が出ない、音声が割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない
思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

本機の内蔵電池を廃棄するときは、次のことを守る
「リサイクルご協力のお願い」をご覧ください。

実際の交通規制に従って走行する
ルート案内が実際の交通規制に反している場合があり、交通事故の原因となります。

ヒューズを交換するときは、規定容量(アンペア)のヒューズを使用し、専門業者に依頼する
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。ヒューズ交換は販売店などに依頼してください。

フロントガラスに貼り付ける機器等は、車を止めてから操作する
無理な姿勢で操作すると運転操作を誤り事故の原因となります。

注意

本機を高温の場所に保管しない
窓を閉め切った炎天下の車内など非常に高温な環境での保管は、本機の変形や故障の原因となることがあります。

本機は自動車用途以外で使用しない
発煙や発火、感電やケガの原因となります。

本機の上に重いものを乗せたり、乗ったりしない
落下させる、たたくなど、強い衝撃を与えない
故障や火災の原因となります。

キャッシュカードなどを本機に近づけない
磁気データが消去されることがあります。

本機をフロントガラスと車用サンシェード等の間に挟み込まない
熱がこもり、本機の変形や故障の原因となることがあります。

運転者は運転中に画像を注視しない
前方不注意となり交通事故の原因となります。

車両から乗り降りするときなどは、製品に頭部をぶつけないように注意する
ケガの原因となります。

温度の上昇に注意する
夏の炎天下、直射日光を浴びている場合など、表面が高温になるので触る場合は十分注意して触ってください。車のダッシュボード同様に高温になります。

異常時の問い合わせ

警告

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口にご相談する
そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

この製品の保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。

保証期間

修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください。（お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります。）

保証期間中の修理

について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。

連絡先については、弊社ホームページをご覧ください。

保証期間経過後の

修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。なお、生産終了により補修用性能部品の調達や修理後の性能保証などの事情から修理できない場合があります。あらかじめご了承ください。

車からの脱着

(お取り外し・お取り付け)

について

弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、承ります。なお、修理・点検時における本製品のお車からの脱着費用の負担、及び脱着作業は承っておりません（保証期間内含む）。販売店、または取付店にご相談ください。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本書の見かた

表記	意味
	取り扱いで注意していただきたいことや、本機の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて、説明しています。
メモ	操作する上でのヒントや、機能に関する補足について説明しています。
[○○]	画面に表示される選択項目を表します。
→ [○○○○]	参照していただきたい箇所や設定項目を表します。

- 本書で使っているイラストや画面例は、実際の製品と異なることがあります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書では、microSDHC™メモリーカードおよび microSDXC™メモリーカードを、便宜上「microSD カード」と表記しています。

使用上のご注意

⚠ 本機取り扱いに関するご注意

- 運転者は走行中に再生操作や設定操作などしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。
- ドライブレコーダーの各機能は、設定・設置状況・microSD カードの状態・走行環境（路面状況など）の影響により、正しく作動しない場合があります。
- ダッシュボード上に明るい色のものを置くと、フロントガラスに反射してカメラ映像に映り込む場合があります。ダッシュボード上には明るい色のものを置かないでください。
- 本機は事故の証拠として、効力を保証するものではありません。
- 本機は全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機で撮影できる範囲（→「仕様」）には限界があります。予め記録される映像で確認の上、使用してください。
- 60℃以上の高温または-10℃の低温、および湿度の高い場所では本機の電源をオフし、使用しないでください。
- 本機で撮影した映像を取り扱う際は、被写体のプライバシーなどを侵害しないよう十分にご配慮ください。また、お客様の責任でお取り扱いください。本機で撮影した映像には、車両ナンバーなどの個人情報が含まれる場合があります。
- 天候や時間帯等の周囲の状況によっては、車両前方の状況を正しく認識できない場合があります。
- LED 式信号機や道路上の街灯などを撮影すると、信号機や街灯が点滅しているように撮影されたり、ちらついたりする場合があります。また、色が識別できない場合があります。これらの場合については弊社は一切の責任を負いません。
- 本機は G センサー（加速度センサー）で衝撃（加速度）を検知して事故発生前後の映像を記録しますが、全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 電源供給時には必ず付属の電源ケーブルを使用してください。
- 弊社では、破損したファイルや消去したファイルの復元サービスは行っておりません。

- microSD カードの保存領域は、撮影種別によって下図のように二分割されます。

	録画ファイル保存領域
	写真ファイル保存領域

- 各ファイルは古いファイルから上書き保存されますのでご注意ください。残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。
→「撮影したファイルのバックアップ」
- 事故録画など必要な録画記録が上書きされないように必ず電源を OFF してから microSD カードを取り出し保管してください。
→「microSD カードの入れかた・取り出しかた」
- 動画ファイルはお手持ちのパソコンでも再生できます。ただし、パソコンの性能によっては、映像の再生がコマ落ちしたり止まったりすることがあります。
- カーナビゲーションなど GPS を使用する機器を本機の近くでお使いの場合、電波障害の影響で、一時的に GPS 衛星の電波を受信できなくなる場合があります。また、周辺機器の機能にも何らかの影響を及ぼす可能性があります。
- レンズ部を手で触らないでください。触ってしまった場合は、柔らかい布で拭いてください。
- バックアップ用リチウム金属電池は消耗品です。時間保持用の電池であり、充電を繰り返すと時間が保持できなくなる可能性があります。頻繁に時刻がリセットされる場合は、弊社修理窓口にご相談ください。（**お買い上げ時は1時間程度充電してください。**）
- バックアップ用リチウム金属電池は、通常お客様が交換する必要はありません。データ等が壊れる恐れがありますので、故障時等の交換は、販売店が修理受付窓口へ依頼してください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示に従って処理してください。

⚠ microSD™ カードの取り扱いに関するご注意

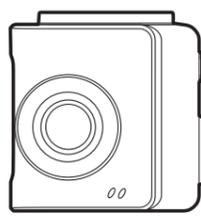
- 本機は、以下の microSD カードに対応しています。

	microSDHC™	microSDXC™
容量	16 GB ~ 32 GB	64 GB ~ 128 GB
ファイルシステム	FAT32	
スピードクラス	Class10 以上	

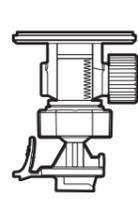
全ての microSD カードの動作を保証するものではありません。

- パイオニア製 microSDHC/SDXC メモリーカード（別売品）の使用を推奨します。詳細は <https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/> より製品ページをご覧ください。
- 本機に使用する microSD カードは、本機でフォーマット操作が必要です。フォーマット時に固定の領域を確保します。そのためパソコンで確認した場合、空き容量が無いように見えますが問題ありません。また、カード内にパソコンなどで他のデータを入れずに使用してください。
- microSD カードへのアクセス中は、microSD カードを抜かないでください。ファイルやカード自体が破損する恐れがあります。
- microSD カードは普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。
- **microSD カードの寿命は保証対象外となります。**
- microSD カードは消耗品です。定期的に新品への交換を推奨いたします。長期間使用すると、不良セクタの多発などにより正常に記録できなくなる場合や、microSD カードがエラーになり使用できなくなる場合があります。
- 付属の動作確認用 microSD カードおよびお客様がご用意された microSD カードの消耗に起因する故障または損傷については、弊社は一切の責任を負いません。

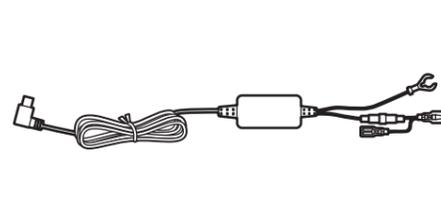
付属品を確認する



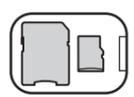
ドライブレコーダー本体 × 1



取付ブラケット × 1



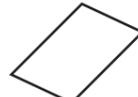
電源ケーブル(4 m) × 1



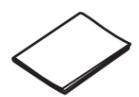
microSDHC カード (32 GB) × 1



取扱説明書 × 1



保証書 × 1



クリーナークロス × 1



microSDカードスロットカバー × 1*



microSDカードスロットカバー用ネジ × 1*

* microSD カードの抜き取りを防止するときに使用します。

取り付けの前に知ってほしいこと

警告

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- 必ず車両の備品および運転に支障のない場所に本機を取り付けてください。

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
*保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条及び細目を定める告示第195条をいいます。
- 本機は、ガラス取り付け専用です。ガラス以外や車室外には取り付けしないでください。
- 必ずフロントガラスの指定の位置・寸法内に取り付けてください。
- フィルムアンテナ／FM/AM アンテナ付近に設置しないでください。受信感度の低下、ノイズの原因となる可能性があります。また、それぞれのアンテナコードや他のケーブルと本機のケーブルを一緒に束ねないでください。

- 車種によって、指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 本機を塞いだり、レンズを汚したりしないでください。
- レンズの近くに反射物を置かないでください。
- 本機は、落としたりレンズ部分には触れないよう取り扱いには十分ご注意ください。
- 自動車のガラスにコーティング剤または特殊加工が施されている場合は、録画品質に影響が出る可能性があります。
- 自動車のガラスに特殊加工が施されている場合は、GPSが受信できない可能性があります。本機の画面に表示されるGPS受信状態表示をご確認の上、GPSが受信できない場合は取り付けの事ができません。→「**ドライブレコーダーの使いかた**」の「**撮影画面の見かた**」
- 作業場所は、空气中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもっている場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。

両面テープは、一度貼り付けた後に剥がすと粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ず本機を仮留めし、ケーブルの引き直しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

両面テープを貼り付ける前に

両面テープを貼り付ける場所は、汚れをよく拭きとってください。

はがれないようにしっかり取り付ける

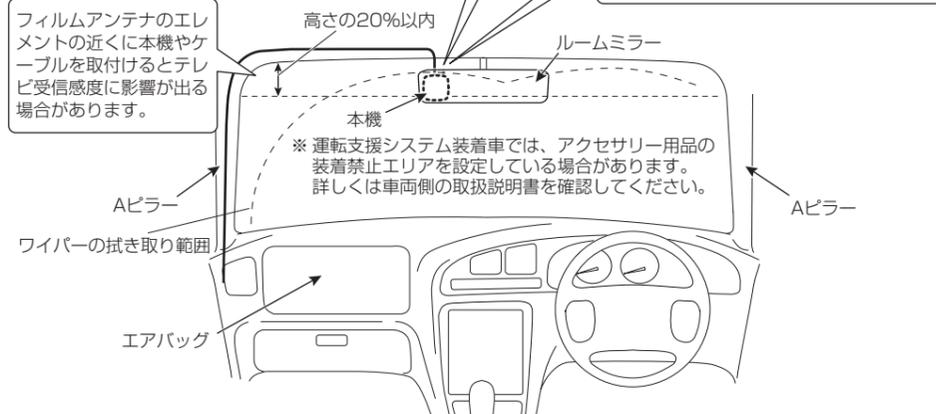
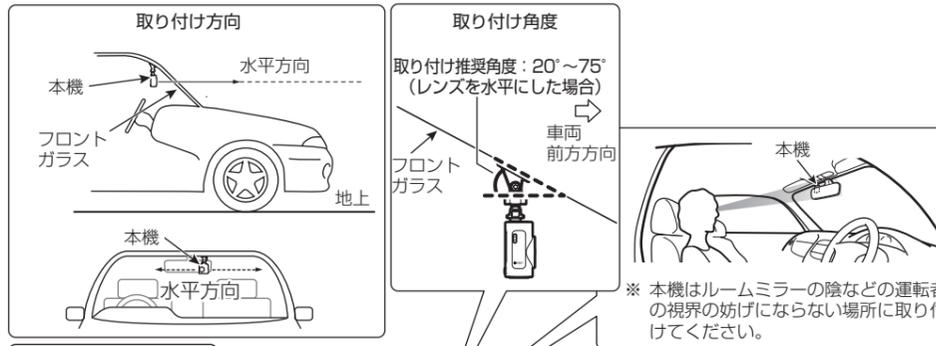
正しく取り付けられていないと、走行中にはがれて事故の原因になります。ときどき点検してください。

取り付け

フロントガラス取り付け指定位置

本機は、以下の条件を全て満たす車両および位置に取り付けてください。

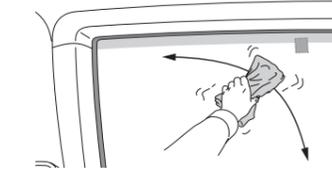
- 取付ブラケットの貼り付け面がフロントガラスの高さの上縁から20%以内の位置（ウェザー・ストリップ、モール等と重なる部分およびマスキングが施されている部分を除く実長の20%以内の範囲）あるいは、運転席から見てルームミラーの陰になる位置
- 本機のレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- 本機のレンズ部分がサンシェードやクロセラライン・クロセラパターンにかからない位置
- 車検ステッカーと重ならない位置
- 本機が前方および左右に対して水平方向を向く位置
- 電源ケーブルが無理なく引き回せる位置



必ずお守りください

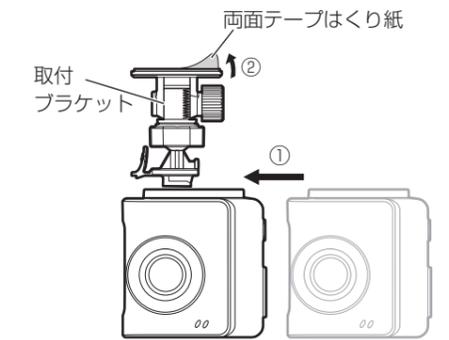
フロントガラスに取り付ける場合は、運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「フロントガラス取り付け指定位置」に取り付けてください。指定位置以外に取り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

1 クリーナークロスで取り付け部分の汚れ・油などを取り除きます



2 本機を取り付けます

- ドライブレコーダー本体を取付ブラケットにセットします。
- 取付ブラケットの両面テープはくり紙をはがします。
- フロントガラスの指定位置に取り付けます。両面テープの全面を一度に貼り付けると気泡が入る可能性があります。片側から少しずつ貼り付けると気泡が入りにくくなります。



注意

- フロントガラスの表面が乾いてから貼ってください。
- 液晶モニターの場合は絶対に押さないでください。
- 取付ブラケットの両面テープは非常に強い粘着力を持っており、一度貼り付けると貼り直しは困難なため、十分ご注意ください。
- 粘着テープの取付強度を確保するため、取付後24時間以上放置してから使用してください。

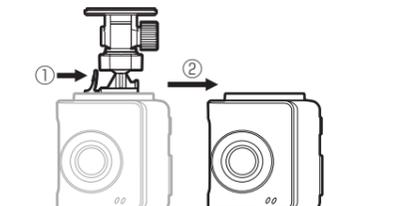
3 取り付け角度を調整します

角度調整ボルトおよびボールジョイント調整用ボルトを緩めて調整します。調整したら緩めたボルトを締めて固定します。



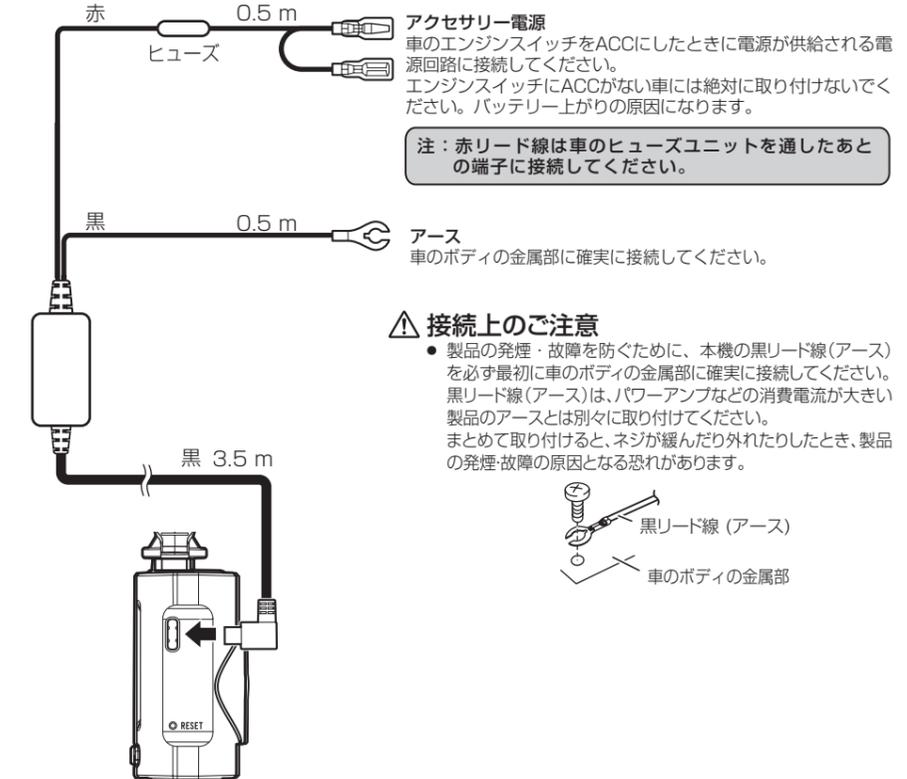
ドライブレコーダー本体の取り外しかた

- 下図の突起部を押しながら、②ドライブレコーダー本体を取り外します。



電源ケーブルの接続

—電源ケーブルの接続は、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



接続上のご注意

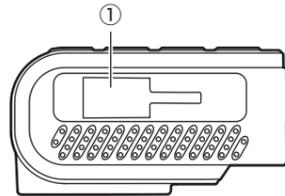
- 製品の発煙・故障を防ぐために、本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。



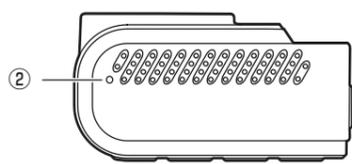
各部の名称

■ ドライブレコーダー本体

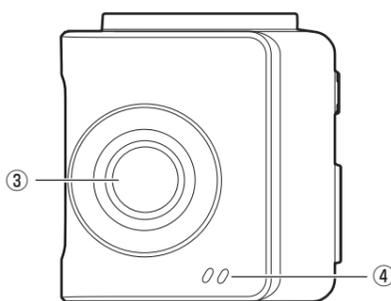
上面



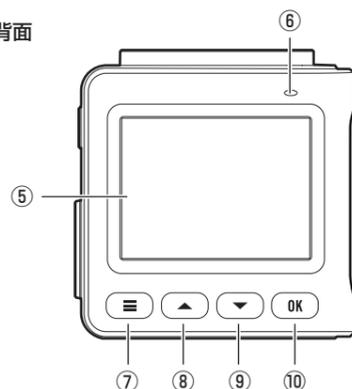
底面



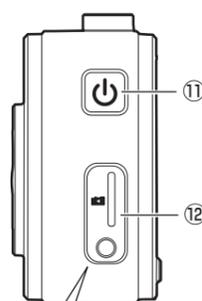
正面



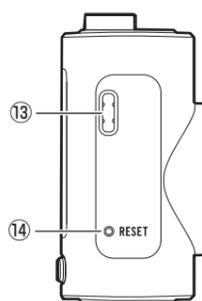
背面



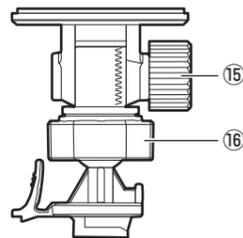
左側面



右側面



■ 取り付けブラケット



microSDカードスロットカバー装着状態
microSDカードの抜き取りを防止するときに使用します。付属のmicroSDカードスロットカバー用ネジで固定してください。カバー取り付け作業は本体をブラケットから取り外した状態での作業を推奨します。

■ ドライブレコーダー本体

- ① 取り付けブラケット挿入部
- ② マイク
- ③ レンズ
- ④ スピーカー
- ⑤ 液晶モニター
- ⑥ システムインジケーター
- ⑦ メニューボタン／ファンクションボタン 1
- ⑧ 手動録画ボタン／ファンクションボタン 2
- ⑨ 写真撮影ボタン／ファンクションボタン 3

⑩ 再生ボタン／ファンクションボタン 4

- ⑩ 再生ボタン／ファンクションボタン 4
 - ⑪ 電源ボタン
 - ⑫ microSD カードスロット
 - ⑬ 電源ケーブル接続端子
 - ⑭ リセットボタン
- 本機をリセットできます。先の尖っていないもので押してください。

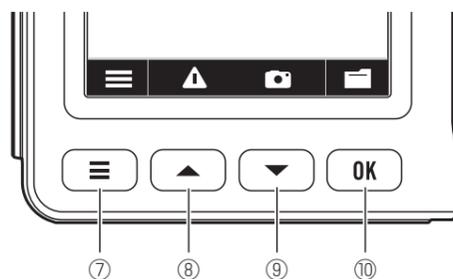
■ 取り付けブラケット

- ⑮ 角度調整ボルト
- ⑯ ボールジョイント調整用ボルト

本機のボタン操作について

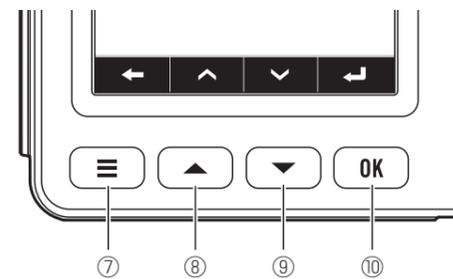
撮影画面表示中とメニュー画面表示中で本機のボタンを押したときの動作内容が変わります。表示中画面に応じた各ボタンの機能は画面下部にアイコンで表示されます。

■ 撮影画面表示中



- ⑦ 常時録画を停止し、メニュー画面を表示する
- ⑧ 手動録画（イベント録画）を行う
- ⑨ 写真撮影を行う
- ⑩ 撮影ファイル（常時録画／イベント録画／写真）の再生画面を表示する

■ メニュー画面表示中



- ⑦ 戻る
- ⑧ 上または次へ*
- ⑨ 下または前へ*
- ⑩ 決定

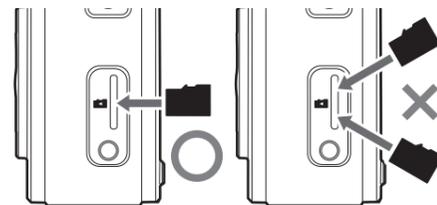
*設定メニューの露出補正の画面を表示している場合は、+（明るく）／-（暗く）を調整します。

microSD カードの入れかた・取り出しかた

microSD カードを出し入れする際は、必ず車のエンジンをオフ（ACC OFF）にしてください。

microSD カードを挿入する

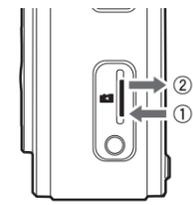
microSD カードの端を持ち、下図の向きでゆっくりと「カチッ」と音がするまで microSD カードスロットに挿入します。



⚠ 注意
● microSD カードを斜めに挿入しないでください。破損の原因になります。

microSD カードを取り出す

microSD カードの上端をゆっくりと「カチッ」と音がするまで内側へ押し（①）、ロックを解除してから取り出します（②）。



⚠ 注意
● microSD カードは書き込み後は熱を有しているため、取扱には注意してください。

SD™ カードフォーマットについて

以下の場合、SD カードフォーマットの案内が表示されることがあります。

- 本製品を初めて使用する場合
- 新しい microSD カードを使用する場合
- パソコンで microSD カードのファイルを削除、変更等した場合
- MENU の録画ファイル時間を変更した場合 → 「ドライブレコーダーの設定」案内に従いフォーマットして本機で使用してください。フォーマットを行うと SD カード内のデータはすべて消去されます。フォーマットを行わないと録画が開始できないため、使用中の SD カードのデータを消去したくない場合はフォーマット操作を中止し、新しい microSD カードに交換してからフォーマットしてください。

ドライブレコーダーの使いかた

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機の電源について

本機は、車のエンジンをオン（ACC ON）にすると起動し、自動的に録画を開始します。（常時録画機能） → 「ドライブレコーダーの使いかた」の「常時録画機能について」

車のエンジンをオフ（ACC OFF）にすると本機の電源がオフになります。

■ 手で電源をオン／オフする

車のエンジンがオン（ACC ON）状態のときは、本機の電源を手動でオン／オフすることができます。撮影画面で電源ボタンを 3 秒以上押しと電源がオフになります。もう一度 3 秒以上押しと電源がオンになります。
車のエンジンがオフ（ACC OFF）状態のときは、電源ボタンを押しても動作しません。

システムインジケーター表示について

本機の動作状態をシステムインジケーターで表します。

システムインジケーター	メニュー表示中／再生中	常時録画中	イベント録画中	警告発生中
点灯（緑）	—	○	—	—
点滅（緑）	—	—	○	—
消灯	○	—	—	○

ドライブレコーダーの使いかた (つづき)

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

撮影画面の見かた



撮影状態表示

常時録画中およびイベント録画中：赤点滅
(イベント録画中は、撮影状態表示の下に「イベント録画中」と赤い字で表示します)

ステータス表示

本機の動作状態を表示します。

📶: GPS 受信状態表示
(受信すると緑、受信できないと白で表示します)

🎤: 音声記録表示
(オフの場合は「\」を表示します)

撮影経過時間表示

00:30

撮影年月日時刻表示

常時録画機能について

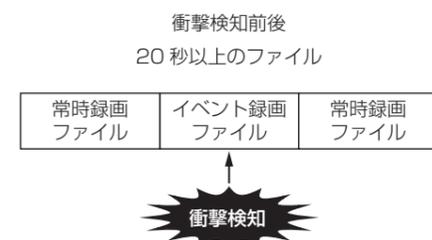
本機が起動すると自動的に録画を開始します。録画した映像は設定時間単位 (工場出荷時は 1 分間) で 1 ファイルとして microSD カードの「Normal」フォルダーに保存されます。各ファイルは古いファイルから上書きされます。

メモ

- 常時録画時間は変更することができます。
→ 「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」- 「録画ファイル時間」
- 録画ファイル時間の変更をすると、SD カードのフォーマットが必要になり、すべてのデータが消去されます。録画ファイル時間を変更したい場合は、あらかじめ録画データのバックアップを行ってから変更してください。(誤って録画ファイル時間を変更した場合は、何もせずにもう一度操作して元の値に変更すると、SD カードのフォーマットは行われません。)
- 下記の場合に常時録画を停止します。
 - メニュー画面を表示している場合
 - 電源供給が停止された場合
 - microSD カードを取り外した場合
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。

イベント録画機能について

■ 衝撃を検知して自動で撮影 (イベント録画)
他の車との接触事故が発生した場合など、本機が衝撃を検知した時点から少なくとも前 20 秒、後 20 秒が自動的にイベント録画ファイルとして microSD カードの「Normal」フォルダーに保存されます。



衝撃を検知した際には本機からアラーム音が鳴り、撮影画面左上に「イベント録画中」の文字を表示することでイベント録画中であることを示します。

■ 手で撮影 (手動イベント録画)

常時録画中に手動録画ボタンを押すと、押した時点から少なくとも前 20 秒、後 20 秒がイベント録画ファイルとして microSD カードの「Normal」フォルダーに保存されます。

メモ

- 衝撃を検知する感度を調節できます。
→ 「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」- 「振動検知感度」
- 録画時間は状況によって変更になる場合があります。
- 衝撃検知が録画開始直後や録画完了直前に発生した場合、2 つのイベント録画ファイルが保存されます。

写真撮影機能について

常時録画中またはイベント録画中に写真撮影ボタンを押すと、静止画として microSD カードの「Photo」フォルダーに保存されます。

撮影したファイルを再生する

撮影した動画ファイルの再生や写真ファイルの表示ができます。

1 再生ボタンを押します

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタン 2 または 3 を押して [常時録画] または [イベント録画] または [写真] を選び、ファンクションボタン 4 を押します

[常時録画] を選んだ場合を例に説明します。



選んだ種類のファイルをサムネイル表示します。

3 ファンクションボタン 2 または 3 を押してファイルを選び、ファンクションボタン 4 を押します



選んだファイルを再生します。

メモ

- 再生中画面でファンクションボタン 4 を押すと、ファイル削除確認画面が表示されます。[はい] を選ぶと、再生中のファイルを削除できます。

ドライブレコーダーの設定

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

本機に関する設定が行えます。また、設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。この他、microSD カードのフォーマットや本機のバージョン情報を確認することもできます。メニュー画面表示中は、常時録画機能が停止しますので注意してください。

1 メニューボタンを押してメインメニューを開きます

以降表示される各画面において、約 30 秒間何も操作が行われなかった場合は、自動的に録画中画面に戻ります。

2 ファンクションボタン 2 または 3 を押して設定項目を選び、ファンクションボタン 4 を押します

≡メニュー	1/4		
言語	日本語>		
タイムゾーン	GMT+09:00>		
時刻GPS連動	ON>		
時刻設定			
←	↑	↓	→

各設定画面でファンクションボタン 2 または 3 を押して設定値を選び、ファンクションボタン 4 を押して決定します。

設定が完了し、前画面に戻ります。

設定できる機能

太字: 工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	設定値
言語	画面に表示する言語を設定できます。	[日本語] / [English]
タイムゾーン	タイムゾーンを設定できます。日本国内で本機を使用する場合は工場出荷時の値 [+ 9] を選んでください。	[- 12] ~ [+13] [+9]
時刻 GPS 連動	年月日、時刻を GPS の時刻に自動的に設定します。	[ON] / [OFF]
時刻設定	年月日、時刻を手動で設定できます。	—
画質	動画撮影時の画質を設定できます。	[スーパーファイン] / [ファイン]
録画ファイル時間	常時録画機能の 1 ファイルあたりの録画時間を設定できます。	[1 分] / [3 分] / [5 分]
露出補正	動画撮影時の露出を設定できます。	[-2.0] ~ [+2.0] [+0.0]
振動検知感度	振動や衝撃を検知する感度を設定できます。	[OFF] / [High] / [Middle] / [Low]
モニター表示設定	スリープに入る時間を設定できます。	[常時 ON] / [10 秒後 OFF] / [30 秒後 OFF] / [1 分後 OFF]
マイク	動画撮影中に本機周辺の音声も記録する / しないを設定できます。	[ON] / [OFF]
操作音	操作音の設定ができます。	[ON] / [OFF]

ドライブレコーダーの設定（つづき）

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

設定項目	設定内容	設定値
システム音量	再生音量の設定ができます。	[Low] / [Middle] / [High]
オペレーションロック	業務用途の機能です。管理者以外には設定変更やメニュー操作ができないようにする機能です。	[0001] ~ [9999]
SDカードフォーマット	microSDカード内のすべてのファイルを削除できます。フォーマットが完了すると、本機は自動的に再起動を行います。	—
工場出荷状態に戻す	設定を工場出荷時の状態に戻す（初期化）することができます。初期化が完了すると、本機は自動的に再起動を行います。	—
バージョン	本機の製品型番やファームウェアのバージョン情報を確認できます。	—

録画時間および枚数の目安

下表は、本機の工場出荷状態におけるSDカードの容量に応じた各動画の録画時間の目安であり、使用するmicroSDカードや被写体、撮影条件等により変動します。

32 GB の場合の録画時間の目安

常時録画	イベント録画	写真枚数
約3時間20分	約1時間20分	約100枚

128 GB の場合の録画時間の目安

常時録画	イベント録画	写真枚数
約11時間40分	約5時間	約100枚

メモ

- 録画時間は目安です。録画する風景等で異なります。

撮影したファイルのバックアップ

microSDカードの各ファイルは古いファイルから上書きされます。

残しておきたい大切なファイルがある場合は、次の方法でバックアップすることをお勧めします。

メモ

- 事前に予備のmicroSDカードを用意してください。

1 microSDカードを差し換えます

安全な場所に停車し、本機の電源を必ずオフにしてからmicroSDカードを取り出して、予備のmicroSDカードと差し換えてください。

2 パソコンにファイルをコピーします

必要に応じて同梱のSDカードアダプターを使用し、microSDカードをパソコンへ挿入します。

フォルダーやファイルの構成について

microSDカード内のフォルダーやファイルの構成は下図の通りです。

📁 フォルダー 📄 ファイル



メモ

- #####の部分には、常時録画ファイルなら「NORM」、イベント録画ファイルなら「EVEN」が自動的に付与されます。#####.#####.#####の部分には、年月日、時分秒、ファイル番号が自動的に付与されます。
- ファイルの移動、および削除を行った場合、microSDカードの再フォーマットが必要になります。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、下記内容を確認してください。

症状	原因	対処
本機の表示や動作がおかしくなった。	本機のマイコンが誤動作を起こしている。	リセットボタンを押してください。 → 「各部の名称」
	microSDカードに何らかの問題が発生している可能性があります。	microSDカードをフォーマットしてください。 → 「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」 - 「SDカードフォーマット」
記録されているはずのファイルが見当たらない。	microSDカード内のファイルは古いものから順に上書き保存されています。	残しておきたい大切なファイルがある場合は、バックアップすることをお勧めします。 → 「撮影したファイルのバックアップ」
運転中に事故にあったが動画ファイルが作られていない。	振動検知の感度が適切では無い可能性があります。	検知するセンサーの感度を調整してください。 → 「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」 - 「振動検知感度」
動画ファイルを再生しても、音声が届かない。	マイクの設定がOFFの可能性があります。	マイクの設定を再確認してください。 → 「ドライブレコーダーの設定」の「設定できる機能」 - 「マイク」
	パソコンの再生ソフトが録画ファイルの音声コーデックに対応していない。	ADPCM対応の再生ソフトを使用してください。

仕様

型番	VREC-DH100-D
記録媒体	microSDHC/microSDXCカード class10 (16 GB ~ 128 GB)
撮像素子	1/2.9型 CMOS センサー、有効画素：約 200 万画素
記録画角	水平 109° 垂直 57° 対角 132°
F 値	F2.4
録画モード	1920 × 1080P
GPS	搭載
G センサー	3 軸 G センサー（イベント録画時：3 段階レベル設定可能）
記録方式	常時録画 / イベント録画 / 手動イベント録画
録画ファイル構成	1 分 / 3分 /5 分
ディスプレイ	2.0 インチ液晶
音声録音	ON/OFF 可能
フレームレート	27.5 fps
動画圧縮方式	MOV (H.264 + ADPCM codec)
画像圧縮方式	JPEG
電源電圧	本体 DC5 V (12 V / 24 V 用 専用電源ケーブル付属)
消費電力	2.0 W
動作温度	-10 ℃ ~ +60 ℃
外形寸法	60.8 mm × 123 mm × 32 mm (幅 × 高さ × 奥行)
本体質量	95 g (ブラケット含む)
取付推奨角度	20° ~ 75°

GPS について

- GPS 衛星（人工衛星）から位置測定用の電波を受信して、現在地を測位するシステムが GPS（Global Positioning System：グローバルポジショニングシステム）です。
- GPS 衛星信号は、固体物質（ガラスを除く）を通過することができません。次のような場所にいるときは、GPS 衛星の電波がさえぎられて受信できないことがあります。トンネルの中やビルの駐車場、2 層構造の高速道路の下、高層ビルの群集地帯、密集した樹木の間

リサイクルご協力をお願い

本品は小型家電リサイクル法の対象です。一般ごみとしての廃棄をしないでください。使用済の製品はお住いの自治体の指示に従って廃棄してください。使用済製品に含まれる貴重な資源の有効活用にご協力ください。

商標・著作権など

- microSDHC、microSDXC ロゴは SD-3C LLC. の商標です。



- 本製品の一部分に Independent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。

